

苗場山麓 ジオパーク

Vol. 70

振興協議会だより

〔発行日〕令和6年12月25日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



苗場山麓は日本ジオパーク認定10周年！

苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに認定され10年目を迎え、記念事業として講演会と散策道を歩くトレッキングを開催しました。

10月26日（土）の講演会には、世界規模の気候変動を研究している大岩根尚さん（hikari works 合同会社代表、元三島村役場ジオパーク専門職員）を講師としてお招きし、「私たちの暮らしと地球温暖化～食と農を通じた地球とのかかわり～」と題し、昨今の気象変動、地球温暖化や最近の私たちの暮らしや生活に影響が出ていること、私たちの日常生活が与えてしまっている影響を牛肉やスマートフォン等、分かりやすい事例でお話いただきました。グループワークでは自分たちが普段から何ができるのか参加者からも活発な意見交換が行われ、地域で作ったもの旬のものを買う食べる、文化や伝統のもつ持続可能性と豊かさにあらためて気づき、食や生活の地域循環が大切であると、参加者自ら考える貴重な機会となりました。参加者それぞれに感じるものがあり、今後それぞれのアクションにつながればと思います。

翌27日（日）のトレッキングイベントでは、これまでジオパークで整備を続けてきた中津川左岸散策道の結束集落あずき坂周辺を歩きました。

天候に恵まれ絶好の散策日和。前日の講演会のお話を思い返しつつ、ガイドからの説明を聞きながら地球温暖化が苗場山麓の自然に与えている影響を観察しながらブナ林を散策しました。途中、別のツアーの皆さんと遭遇し森の中で思いがけない交流も。雄大な苗場山と深い中津川溪谷を望む絶景、山の展望台（前倉のトド）ではベテランガイドさん達の軽妙な説明を聞き、最後に参加者全員で記念撮影を行いました。秋の青空のもと、すがすがしい半日を過ごすことができました。



記念講演会でのワークショップ



記念トレッキング



山の展望台にて



津南小学校3年生・ジオパーク学習発表会

11月7日（木）、津南小学校3年生のジオ学習について発表を見せていただきました。10月の学習発表会の再現ということでした。今年度、矢放神社と八本杉・川の展望台・龍ヶ窪・見玉不動尊・山伏山の風穴と空の展望台・結束の石垣田と8ヶ所のサイトを見学しました。子どもたちは、苗場山麓のジオサイトについては、他の地域には同じものはない、ジオパークはすごいところである、ジオパークは昔から続いている自然そのものである、苗場山に関係したものであるとわかっているようです。

子どもたちの目線で、班ごとにジオサイトを実際に見学したことを上手に表現できたと思います。メグスリノキの木の枝を煮込んで、その汁を実際に飲む場面や、段ボールで石垣田を表現し、背景にある歴史を分かりやすく説明して発表するなど工夫が見られ、楽しい内容でした。

聞くとところによると劇のあらすじは先生が示したといいますが、細部については、子どもたちが進んで作成したということです。ふる里を愛する心を育てるには、ふる里を知ることから始まります。今後、自信をもって育ってほしいものです。



ジオサイトにまつわる物語を劇で表現



ジオパーク秩父へ視察に行ってきました

11月9日（土）、5年ぶりに近隣のジオパーク視察訪問を実施しました。目的は、①苗場山麓で見られない古い岩石や地層を観察、②共通する地形（河岸（成）段丘）との比較、③ガイド・事務局との意見交換の場を設けることです。

「道の駅みなの」にてジオパーク秩父の担当者2名と合流し、ジオサイト巡検を開始。まず、親鼻橋の荒川右岸で小豆色の石（紅簾石片岩）の大露頭と、2m以上もある甌穴（ポットホール）を見学しました。その後、美の山展望台では、秩父盆地の段丘地形と周辺の山々の地質の説明を受けました。この盆地がかつては海であったとの説明では、時に盆地が雲海におおわれ、かつての秩父湾を想像させてくれるそうです。その後「宮沢賢治」ゆかりの宿である旧寿旅館にて昼食をとり、自己紹介を兼ね情報交換を実施しました。

次に小鹿野総合センターで「縄文遺跡出土品」を見学。約8000年前の土器や石器を拝見し、土器の突起部分をみると、苗場山麓（千曲川・信濃川流域）のものとの違いがわかりました。

最後に、札所32番法性寺を訪問しました。観音堂の裏に蜂の巣のような岩は、地層中の塩分がしみ出し結晶になる過程で砂粒が崩れてできる模様とのことで不思議な地層でした。好天に恵まれ、大変有意義な1日を過ごすことができました。



美の山展望台で記念撮影



苗場山麓ジオパークでユニバーサルツーリズムを学ぶ

11月16日（土）、苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業で調査を実施されている長崎県の鎮西学院大学教員である山口弘幸氏、柏崎ユニバーサルツーリズムセンターの押見敏昭氏、よりそう smile の高橋義信氏をお迎えし、ユニバーサルツーリズム研修会を「農と縄文の体験実習館なじょもん」で開催しました。

午前の部では、「ジオパークのユニバーサルデザイン化の必要性和苗場山麓ジオパークへの期待と可能性」と題し、山口先生からユニバーサルデザイン7原則（ロナルド・メイス提唱）や、各地9ジオパークで調査研究を実施した取り組み事例の紹介、苗場山麓ジオパークにおける調査報告、観光施設における心のバリアフリー認定制度の説明を受けました。続いて押見さんからユニバーサルツーリズムを始めたきっかけ、車いすの種類の紹介や柏崎UTCの取り組みなどのお話を聴きました。

午後の部は、実際に車いすを使用し、操作の仕方や注意点を教えてもらい、乗り降りして利用者さんの目線や感覚を体験したり、移動介助の方法などを学びました。その後、ユニバーサルツーリズムに対応したコース巡検で「川の展望台」と「石落とし」を訪れました。研修を受講して、「障がいのあるかた」から「あらゆる人々」に対応できるジオツアーの必要性や、共生社会を目指すことの大切さを学びました。苗場山麓ジオパークとして、ユニバーサルツーリズムの課題と方向性をこれからも検討していきたいと思ひます。



山口先生の講話



参加者の皆さん



石落としで現地研修



LNT (Leave No Trace) ワークショップ子ども向け編を開催しました

11月30日（土）、さかえ倶楽部スキー場にて今年度2回目となるワークショップを開催しました。5月に大人（ジオガイド）向けを行っていますが、今回は子ども向けに「これだけは知って（覚えて）おいてほしい」という7原則の部分や、今後体験するであろう「たき火の仕方」を主としたワークショップになりました。

当日は雨天のため屋内中心の内容になってしまいましたが、タープの下で実際にたき火をして体感したり、たき火で焼芋を楽しんだり子どもだけでなく大人も楽しみながら学べる講座になったと思います。

今年度2回のワークショップを開催しましたが、ジオパークの活動や事業を行う上で意識していきたい考え方や取り組みでもありますので、参加された方々にはこれからの生活の中でぜひ意識して実践いただければと思っています。



たき火の様子

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

吉楽 隆志さん



中津川左岸散策道で汗を流し、不思議体験をした話（ガイド No.69 吉楽 隆志さん）

縁あって今の職場に就き古道復活、散策道整備のプロジェクトに関わるようになった。元々、自然に関わることや登山を趣味としていたのでこれは面白そうと直ぐに飛びついた。津南駅から石坂、高野山、前倉、栄村の矢櫃、小赤沢、切明、何れは群馬県境へ……。当面約 30km の行程だ。

まずは古い地図と先達からの見聞き、そして、現在の地図と GPS を片手にほぼ原野になっている林野に第一陣として分け入る。まさに、大海原を泳ぐように藪を漕ぎピンクリボンでマーキング。修正を加え第二陣が鉋に手鋸、チェーンソーを担いで分け入る、汗だくの重労働だった。極力、自然を大切に余分な木々は切らず自然に対して最低限の配慮は守ってきた。そんな作業の中で素晴らしく美しいブナ林、見たこともない巨木ブナ群。そして、何百mも続く山野草の群生。良くぞ残ってくれた、出会ってくれたと改めて苗場山麓の自然に大感激した。

不思議な体験もあった。部分的に散策道が出来上がり、容易に入山ができるようになり点検に入った暑い日だった。石坂方面から入り百合窪村跡地へ向かう途中、左が切れ落ちて眼下には中津川の流れる見える痩せた尾根道（私はここを風の尾根と呼んでいる）を歩く。ここは中津川からの風が吹きあがりとても涼しい所だ。その尾根を登り切って下ると百合窪村跡地だ。せっかく風の尾根で涼んでもすぐ汗だくになり、跡地の入口の大きな倒木の上で休憩を取り、手拭いで顔を拭くために眼鏡をはずし腰掛の上に置いた。休憩中に何度も確認したが、暑さで思考が鈍っていたのか眼鏡を掛けず立ち上がり、次の目的の龍辰峰へと歩みをはじめて跡地の出口で眼鏡を掛けていないことに気付いた。慌てて戻ったのだが、あるはずの眼鏡が無い。この間わずか 5 分。しかし見当たらない。おかしい……。仕方なく龍辰峰まで行き、再び跡地まで戻るがやはり無い。

次の日、眼鏡の搜索のため再び入山し、昨日の休憩ポイントまで着くと倒木の上に有るではないか。おかしい……。不思議だ。まるで狐につままれたような気分になった。

百合窪村は、大昔の飢饉等で廃村になったのでは無く、移村で無くなったと聞くと、ここで暮らした痕跡が残る中、何時もここに来ると何かを感じる。若いころに靈感体験をしたこともあったが、この百合窪村跡でのハプニングはとも不思議な出来事だった。



木々にピンク色のリボンを巻く



散策道開削の整備



百合窪村跡

お知らせ

2月1日(土) 9:00~12:00 雪散歩ノウハウプレ体験 場所:石落し

2月12日(水) 18:30~20:00 今年の講座まとめ、ガイド認定検定について 場所:津南町総合センター

2月28日(金) 18:30~20:00 インバウンド講座 場所:農と縄文の体験実習館なじょもん



突撃しよう！となりのジオ便り～霧島ジオパークからこんにちは～

みなさんこんにちは！霧島ジオパークです。

霧島ジオパークは、鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島山を取り囲む5市2町の全域と鹿児島湾（錦江湾）の一部で構成されています。

当エリアの中央にそびえる霧島山は、約34万年前以降の火山活動によって形成された活火山で、大小様々な大きさの20を超える火山が集まり、その狭い範囲に火口や火口湖が密集する様子は国内の他の火山にはない際立った特徴をもっています。

また、繰り返される火山活動の影響により、刻々と変化する風景などを楽しめる場所でもあります。

<火山の楽しみ方>

霧島山の最大の魅力は、活火山の火口のすぐそばを歩きながら、火山の荒々しい姿やにおいを体感できることです。それらを体験できる場所はいくつかありますが、今回は掲載した写真の「硫黄山火口展望所」を紹介します。

ここは、霧島山で一番標高が高い「韓国岳」に登る途中にあり、登山者が休憩がてら、火口から勢いよく立ち上る噴気の様子を写真に収めたり、火山ガスのにおいや音を感じたりできる絶好のポイントとなっています。硫黄山は、現在も活動が続ける火山のため、火山活動の情報に気を配りながら火山を感じてみませんか。

<火山の麓での楽しみ方>

火山と私たちの暮らしにはたくさんのつながりがあり、その一つに「芋焼酎」があります。

当エリアの大半は、火山噴出物が堆積してできた土地（シラス台地など）であり、水はけがよく保水性が乏しいという特徴があります。

このような環境でも栽培しやすく南九州で盛んに栽培されてきた「サツマイモ」と霧島山周辺に降った雨が大地に浸透し、地下水になり、火山の内部を通して崖や谷間などから湧き出す豊かで清らかな「水」。火山の恵みにより生み出された、この二つの出会いにより「芋焼酎」は生まれました。

エリア内では、様々な銘柄の芋焼酎がつくられています。多くのかたに親しまれている芋焼酎は、火山と暮らしとのつながりが分かる特産品の一つとなっています。

他にも様々な魅力がある霧島ジオパークで、あなたならではの楽しみ方を見つけてみませんか。ぜひ、お越しください。



霧島山



硫黄山火口展望所



芋焼酎



令和7年度 苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業募集

苗場山麓ジオパーク地域を対象とした学術調査及び研究を支援し、苗場山麓ジオパークの学術資料の蓄積を図るため、大学院生、研究者等を対象に調査研究費の助成をします。1件あたり上限10万円。ただし助成対象となる研究は1人、または1グループあたり1件とします。

●助成対象研究

苗場山麓ジオパークにおける地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学
苗場山麓ジオパークに関連した地域振興及び地域経済にかかわる調査研究ほか

●助成対象者

大学院またはそれに相応する教育研究機関において、調査・研究に従事している大学院生、研究者等
初年度から調査研究を継続している3年以内の申請者（最長3年）
事務局が依頼した場合、期間内に成果を地域に発表できるかた
上記の条件のいずれかに該当し、令和8年1月31日までに実績報告書の提出が可能なかた

●応募の方法

苗場山麓ジオパークのホームページより新様式1～4をダウンロードし、記入の上、書類を直接事務局まで郵送してください。【応募締切】令和7年1月31日（金）※当日消印有効

※詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）

令和7年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集ページをご覧ください。



苗場山麓ジオパークHP
令和7年度学術研究奨励事業